

令和4年度

自己評価表

鳥取聾学校ひまわり分校

中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。 ⇒ 〈めざす子ども像〉 学び合う子 かなえる子 やりぬく子	今年度の 基本方針	- 子どもが主役となる保育・授業づくりと確かな学力の定着 - 自分を知り、人とかかわってよりよく生きようとする態度の育成 - からだを動かす楽しさを知り、健康増進・体力向上に努める態度の育成 - 自立と社会参加をめざしたキャリア教育 - チームひまわりの魅力アップ
---------------------------	--	----------------------	--

評価基準	A：十分達成⇒81～100％⇒問題なし B：概ね達成61～80％⇒特に問題なし C：変化の兆し41～60％⇒経過を分析し、改善方策を検討 D：まだ不十分31～40％⇒改善方策が必要 E：目標や方策の見直し30％以下
------	--

項目評価	項目 評価の 具体	年度当初		
		・学部 ・分掌	現状	目標（年度末の目指す姿） 目標達成のための方策
1 社会で生き抜く力を身につける	①「学びを深めるための工夫 ・できる・たのしい」保育・授業づくり	幼稚園部	・自分の思いや気持ちを表現しようとしているが、体験したことや思いを伝えることばを十分に獲得しているとは言えない。 ・1日の流れの中で絵本に親しむ機会を設定し、絵本の世界を楽しむ様子が見られるが、想像したことを伝え合うまでには至っていない。	・体験的な活動ができる環境や機会、思いを伝え合う時間を確保する。 ・写真日記や絵日記などを活用したやりとりを含めたことばの力を高める言語環境の整備を進める。 ・さまざまなジャンルの絵本を選定したり、学校図書館を活用したりする。
		小学部	・個別に配慮が必要な児童が増え、実態に幅があるが、それぞれが意欲的に学習に取り組んでいる。 ・手話、音声による表出、獲得語彙数、気持ちの表現方法、ICT活用能力等の個人差が見られる。	・児童がめあてを意識して学習に取り組んでいる。 ・個々がめざす学力が定着している。
		研究教育部	・幼児児童が自分の身につけた「ことば」で伝えようとする姿が見られるが、子どもたちの実態は多様化してきており、個に応じた支援や指導の在り方を深めていく必要がある。 ・教職員の聴覚障がい教育への理解は深まってきているが、聾学校における自立活動やことばの指導に関して実践を重ね、授業改善につなげていく必要がある。	・幼児・児童一人一人の実態に応じた「伝える*考える*見つめる」ためのことばの習得・拡充が図られている。 ・教職員の専門性や指導力、意識が向上している。 ・次の段階を見据え、自立活動指導プログラムを指導計画と実践に活かしている。
2 こうなりたい自分・夢をもつ	③④ 自分のよさを 知る・かわり かかわり（自立活動の充実） のばす・生かすための	幼稚園部	・自分のできることがまだ少ないため、不安になることが多く、消極的なところが見られる。 ・大きくなったら何になりたいのかのイメージを持つことがまだ難しい。	・自分のできることが増え、積極的に様々な活動に取り組んでいる。 ・大きくなったら何になりたいのかのイメージが膨らんでいる。
		小学部	・友達や他者とかわって活動することを好むが、実態の違いにより伝え合うことが難しい。また、自分や友だちのよいところを自分から見つけることも難しい。 ・自信がない活動に、消極的になってしまったり、あきらめてしまったりすることがある。	・自分のよさに気づき、友達や先生に進んでかわろうとしている。 ・自分の役割や仕事をやりとげている。
		支援部	・親子でのやりとりが活発になっている様子が見られる。 ・コロナ禍で教育相談が長期間でできず、保護者は「きこえやことば」についての情報を知りたいと思っている。	・子どもの「伝える」ことばが増え、親子のやりとりの内容が深まる支援をしている。 ・親子のやりとりの手がかりとなる、日常生活のことば絵カードや絵日記の資料を配布する。 ・保護者へのアンケートを行い、保護者のニーズを把握し情報提供を行う。 ・鳥取聾学校本校の乳幼児教育相談担当者と保護者研修プログラムを作成する。
3 あきらめない体力・気力	⑤ からだを動かす楽しさを知る	幼稚園部	・体を動かすことが好きであるが、体の動かし方に不器用さがある。	・体の動かし方が上手になり、楽しんで体をしっかりと動かしている。 ・さまざまな動きを取り入れた体を動かす活動の内容を充実したり、時間を確保したりする。
		小学部	・体を動かすことが好きな児童が多いが、自分から意識して体力づくりを行うことは難しい。	・自分から体力づくりを行っている。 ・毎朝の体力づくりの時間を確保する。 ・体力づくりのバリエーションを工夫したり、バリエーションの中から選べるようにしたりする。 ・体力づくりの様子を通信や掲示などで紹介し、保護者に啓発を図る。
		健康教育部	・新型コロナウイルス予防のために、学校や家庭、地域でしっかりと運動できる機会が減っている。そのため、運動量や運動習慣が減少し、体力不足等の影響が出ている。	・進んで体を動かすことを楽しみ、体力を高めている。 ・子どもたちが自由に選択し、体を動かす遊びを楽しめる環境を整える。
4 キャリア教育の推進	○関係機関との連携 ○保護者の参画意識を高める工夫	支援部	・西部地区難聴特別支援学級担任へ月1回情報発信（聴能だよりを配布）をしているが、困り感や課題等について話し合う機会がない。 ・県の新生児聴覚検査の手引きが新しくなった。	・西部地区難聴特別支援学級担任と児童・生徒の支援について共に考えている。 ・きこえについての早期相談対応の流れができています。 ・保護者が幼児児童の将来の姿やキャリア発達についての理解が深まっている。
		キャリア教育部	・将来の姿を見据えたキャリア発達や支援等について理解を深めていく必要がある。	・保護者への情報提供として、キャリア教育通信の発行と掲示板の更新をする。 ・個別の教育支援計画の参画について懇談等で話し合う。 ・保護者のニーズを把握するための職員研修を実施する。
5 業務改善の推進	(1)削減目標の達成 (2)運営の見直し		・年度末年度始や行事多忙期やまとめの時期に多忙となり、教職員の時間外業務が多くなりがちである。 ・年度始めに新しい校務分掌表による運営を行っている。各学部、分掌担当が責任をもって業務を行いつつある。	・教職員一人一人の働き方に対する意識が高まり、月40時間以上の教職員が0%になっている。 ・新しい校務分掌表に基づき、担当からの提案や働きかけ、ふり返りがスムーズに行われている。 ・自分の時間外業務時間の確認し、健康管理の意識を高める。 ・月2回の「早く帰るあデイ」や鍵閉め時間を決めて、計画的な業務の推進を促す。 ・コロナ対応による計画変更等を円滑に行えるように、職員朝会時やグループボード等を使って日頃から情報共有する。 ・業務過多にならないように全体を調整する機会を定期的に設ける。（企画会議等）

